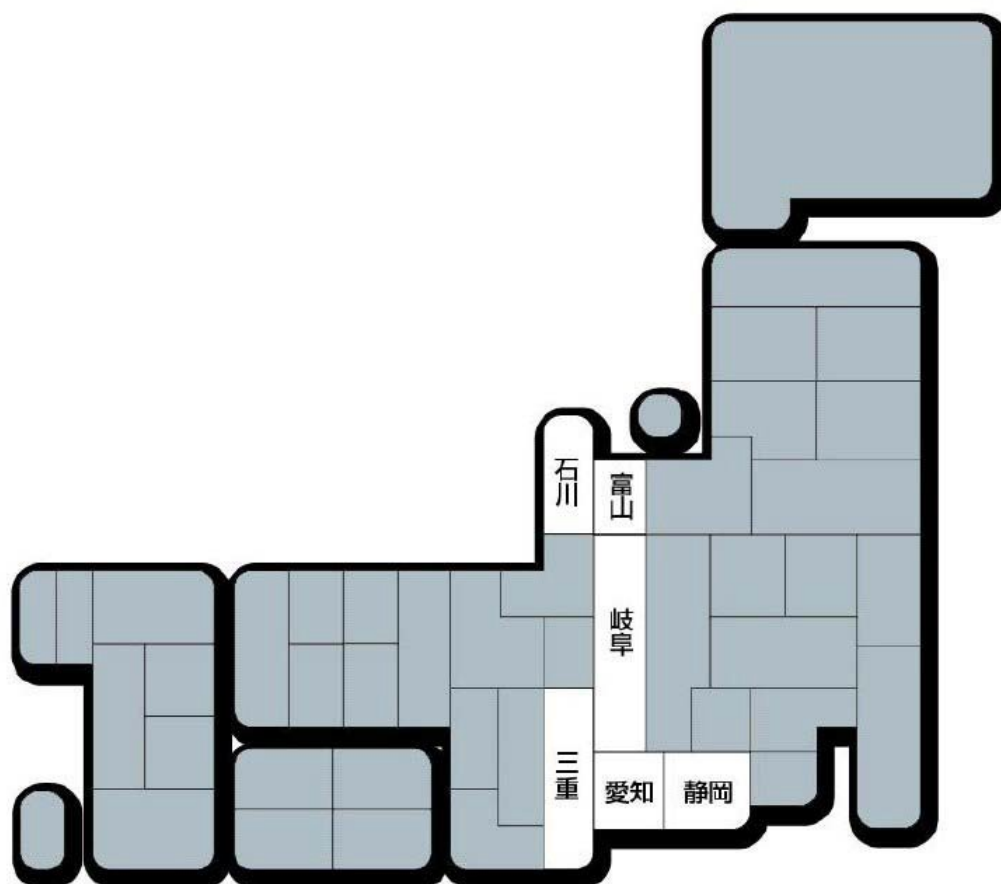


東海北陸国立病院薬剤師会 会誌



THP Tokai Hokuriku National Hospital Pharmacists Association



Vol.28

2022.10

目次

【巻頭言】

名古屋医療センター	吉田 知由	 1
-----------	-------	---------

【施設紹介】

七尾病院	花満 裕	 2
------	------	---------

【委員会報告】

○教育研修委員会

静岡医療センター	平島 学	 4
----------	------	---------

○業務推進委員会

名古屋医療センター	井上 祐貴	 10
-----------	-------	----------

○学術研究委員会

静岡てんかん・神経医療センター	山本 吉章	 14
-----------------	-------	----------

【編集後記】

..... 17

巻頭言

名古屋医療センター 薬剤部長

吉田 知由

巻頭言を書く機会が増えており、そろそろネタ切れで思案している間に締め切りが近づいてしまいました。そんな折、3年ぶりに火の国熊本で開催された第76回国立病院総合医学会から記載させていただきます。

今回で76回を数えますが、沿革を辿ると昭和21年からとなります。国立医療学会の始まりは、国立病院、国立療養所の使命達成のため、会員の職能向上及び相互親睦を図る目的とし、国立病院、国立療養所の同好者をもって医療同好会として発足しています。医療同好会の生みの親は医療局長官の塩田廣重氏です。また国立医療学会機関誌として「医療」があります。その学術賞として昭和43年の総合医学会総会で塩田賞が創設されています。また、名称が国立医療学会に改名されたのは昭和62年となっています。第1回を国立久里浜病院が会長施設として横須賀で開催されて以来脈々と76回まで続いています。しかし、唯一開催されなかった年があったのをご存じでしょうか。平成16年のみ独立行政法人化のため開催されておりました。

塩田賞と言えば、今回の受賞者3名の中で静岡医療（現在：茨城東病院に異動）に在籍していた上田真也先生の「抗菌薬適正使用支援チームの立ち上げによるプロセス指標への影響」（「医療」第75巻4号291-7p：2021 掲載）が受賞したとの大変喜ばしいニュースもありました。東海北陸グループでの仕事をまとめて論文までしておられました。

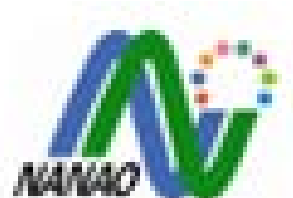
素晴らしい功績と思いつつ、自分が初めて発表したのも総合医学会だったと思い起しました。就職して2年目のこと国立療養所高山病院（移譲済）で在宅酸素療法患者への訪問診療へ医師と同行して服薬指導した内容を口演形式で緊張して発表した覚えがあります。当時は現在のようなポスター発表は無く全演題が口演でした。スライドもリバーサルフィルムでブルースライドを苦勞して作成し、出来上がったスライドの誤植を見つけたときには落胆したものです。今ではPowerPointで簡単に直前でも修正できることは、当時から考えると夢のような事です。指導して頂いた上司と医長からは、仕事をまとめることの大切さを教えてもらいました。

THPでは、学術研究委員会が臨床現場で感じた疑問を研究に発展させる能力を磨き、研究成果を論文にまとめる力を育成することに努めてくれています。

日常の臨床業務から研究を実施し、その成果を論文にまとめることで薬剤師の業務が診療報酬の根拠として認められる可能性があります。病院薬剤師の診療報酬のない業務を発展させるには皆さんの研究マインドがとても重要なのです。

来年の総合医学会は広島です。ソールフードである絶品広島グルメのお好み焼きを食べに行きましょう！

石川県七尾市は、人口およそ5万人、風光明媚な七尾湾があり、漁業が盛んな地域のため海産系の特産物が日常的に楽しめる能登地域の中心都市です。金沢と能登半島を直結する「のと里山海道」と、富山県西部を結ぶ「能越自動車道」が通っており、「東海北陸道」や「北陸道」につながっています。隣町には能登空港（のと里山空港）があり、東京・羽田まで運航しています。また特急「サンダーバード」で七尾駅から大阪駅まで直通していますので、東京・大阪どちらへも足を運びやすく、特急「しらさぎ」（金沢駅乗り換え）で名古屋へのアクセスも良好です。



当院は、そんな七尾市中心部より北西に約3km、JR七尾駅からバスで15分ほどの高台に位置しています。平成21年10月病棟新築、平成29年11月管理棟新築、そして令和元年5月外来診療棟が新築整備され、新しい七尾病院が完成しました。医療法病床数は239床（結核病床25床休棟を含む）であり、標榜診療科は内科・脳神経内科・呼吸器内科・消化器内科・小児科・循環器内科・リハビリテーション科・ペインクリニック内科です。病棟は呼吸器内科結核病棟、脳神経内科病棟、神経筋難病病棟、重症心身障がい児（者）病棟、の4つであり、「結核の入院治療、神経筋疾患に対する長期的治療、重症心身障がい児（者）の療育」が当院の三本柱となっています。その他、通院が困難な方（身体が不自由、ご家族が送迎できない等）、在宅酸素、吸引、人工呼吸器など医療機器や処置の必要な方を対象に訪問診療を行っています。

薬剤科は常勤薬剤師3名で、調剤、製剤、DI、薬剤管理指導業務、外来関連業務、チーム医療などを行っています。外来患者は月平均53名/日、院外処方せん発行率は約80%です。病院の特色から入院患者さまの調剤が日常業務の多くを占めており、簡易懸濁法を取り入れて錠剤はすべて一包化調剤です。病棟毎に注射カートを使用した払出しも行っています。本年度は調剤支援システム（F-Series：TOSHO）が導入され、業務の効率化と安全性向上に取り組んでいます。チーム医療では、感染管理、医療安全を中心に、認知症ケア、栄養サポート、褥瘡対策にも参画しています。また出荷調整による採用医薬品の変更については、医局との取り決めにて簡易的に行っています。

地域への貢献という点からみると、「NST 専門療法士実地修練施設」の認定を受けており、地域のNST教育にも薬学的な分野で協力しています。新型コロナウイルスワクチン接種については、七尾市役所健康推進課と連携を取りながら成人・小児ともに実施しています。また地域の健康づくりのお手伝いのために医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士などの出前講座を開催していましたが、コロナ禍で現在は行っていません。当院は政策医療を主軸としながら、地域の急性期病院をバックアップすることにより地域医療の後方支援に努めています。そのため当院への転院による持参薬鑑別が少なからずあり、採用薬がない場合の対応や効率的な持参薬鑑別が今後の課題と考え

ています。

七尾市は、波穏やかな里海を臨む温泉や、豊富な海の幸を使ったグルメ、歴史ある伝統文化など、さまざまな魅力がある町です。あの有名旅館もある「和倉温泉」は、日本でも珍しい“海から湧く温泉”で、全国有数の温泉街として知られています。当院からは車で数分程ですので、仕事終わりや休日に楽しむこともできます。お近くにお越しの際には、是非お立ち寄りください。

教育研修委員会の活動報告(令和 4 年 10 月)

教育研修委員長

平島 学

今年度より NHO-PAD 推進委員会の活動を3つの常設委員会で分担して継承し、主な活動を教育研修委員会が担うことになりました。今までの教育研修委員会の主な業務は研修会の運営でしたが、NHO-PAD の推進を検討していく上で、教育研修委員会での新しい体制として、研修会検討小委員会と NHO-PAD 検討小委員会の小委員会を立ち上げ、様々な検討を行いました。

研修会に関しては、今年度の採用薬剤師研修会も新型コロナウイルス感染症の影響により、Web 開催としました。当日は大きなトラブルもなく、満足度の高い研修が開催できたものと思います。新採用者も Web 研修に慣れている様子で、タスク側も今までの複数回の Web 開催の研修会を経験し、事前準備から開催までをすべて Web 上で行いましたが、滞りなく実施することができるようになりました。

NHO-PAD に関しては、新たな業務であることから小委員会で多くのディスカッションを行い、例年実施してきた新人自己評価プログラムと統合して NHO-PAD を用いた評価を実施することとしました。新たな評価シートの作成から説明スライドの作成・公開などを経て、7 月に第 1 回目の自己評価、他者評価を行っていただきました。特に大きな混乱もなく実施いただけたかと思います。第 1 回目の評価結果を報告しますので、今後の指導・教育にご活用ください。

また、業務推進委員会と教育研修委員会、合同の新たな取り組みとして、中堅薬剤師にチーム医療メンバーとしての自覚意識や後輩への教育・評価法を身につけるためのトレーニング、チームビルディングやリーダーシップスタイルなど理解促進を図ることを目的とした MBTI 研修会を企画しました。2022 年 10 月 1 日(土)に名古屋医療センターにおいて 10 名参加予定の研修会となります。

今回は、採用薬剤師研修会の様子と NHO-PAD を用いた採用薬剤師の評価結果についてご紹介します。

◆ 令和 4 年度採用薬剤師研修会

開催日:令和 4 年 7 月 2 日(土)

開催場所:Zoom 使用によるオンライン研修

受講生 :新採用者 15 人

新型コロナウイルス感染症の拡大により集合研修の開催が困難となり、令和 3 年度より Zoom を用いたオンライン形式での研修会を開催しております。今回は昨年に続き、2 回目の開催となります。受講生側は、新型コロナウイルス感染症下の新たな生活様式となってから時間も経った為か、スムーズにオンライン会議ツールを使うことができていました。各グループに分かれての個別セッションでは、オンライン特有の会話形式やタイムラグによる話しにくさ、服薬指導のデモでは画面越しということでやりづらさはあったようですが、例年と比べても遜色ない成果を生み出すことができていま

した。

タスク側は昨年の経験から、いつから、どのような準備が必要となり、またトラブルを想定した事前の対策を行うことができました。その一つが昨年問題点に挙げられた同施設内のマイク・スピーカー使用によるハウリングや音声の混線であり、その対策として受講生のいる施設に対しイヤホンマイクの事前配布を行いました。ただし、いくら綿密な事前準備をしても当日は想定外のシステムトラブルの可能性があり、システムメイン担当を1名、フリーに動けるタスクを数名配置した上で開催し、当日は大きなトラブルもなく無事に終わることができました。一部のスタッフに多大な負荷がかかることもあったため、今後、オンライン形式に即したプログラムへの改変も必要であると考えております。しかし、オンライン形式であっても少人数に分かれたグループワークおよび全体セッションでの発表・検討を実施出来たことは、ひとつの大きな成果であると考えます。現在の新型コロナウイルス感染症の状況がすぐに好転する可能性は残念ながら低いと考えられるため、今後もオンラインでの開催を余儀なくされる状況が続くと見込まれます。たとえ画面越しであっても、同じ機構の仲間がいること、その繋がりの大切さや貴重さを伝えることができるような研修会を、目標の1つとして継続していきたいと思います。

受講生全体写真



セッション1 自己紹介風景



セッション2 問題抽出風景



セッション3 指導方法風景



久田先生 講義風景



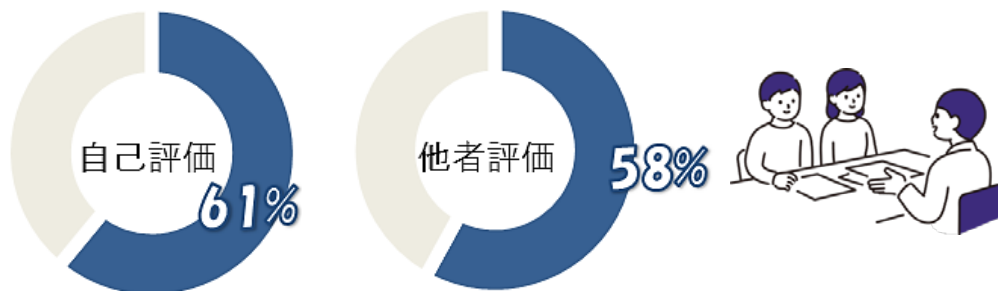
セッション4 ロールプレイ風景



◆ NHO-PAD を用いた採用薬剤師の評価

NHO-PAD の基本能力開発プログラムから新採用薬剤師に習得してもらいたい全 38 項目をピックアップし、評価時間を短縮する工夫として 6 割以上出来ているものを「○」と評価することにした。令和 4 年度の新採用薬剤師に対して、7 月 1 日から 31 日の間に自己評価、他者評価を実施いただき、結果は以下の通りとなります。

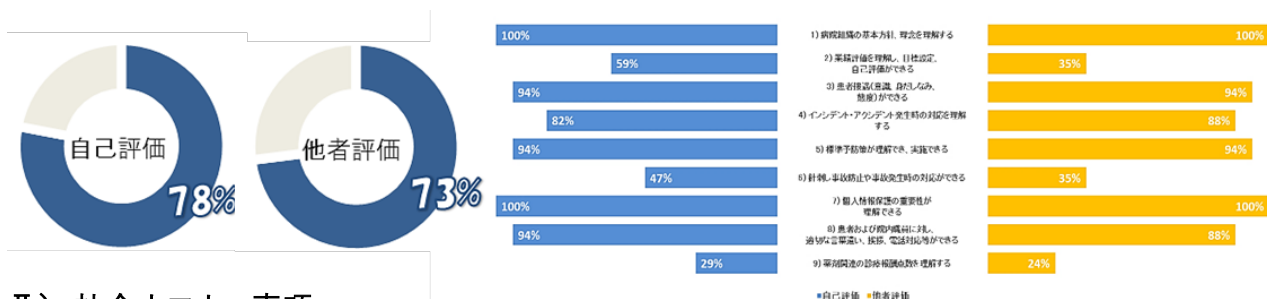
【総合評価】



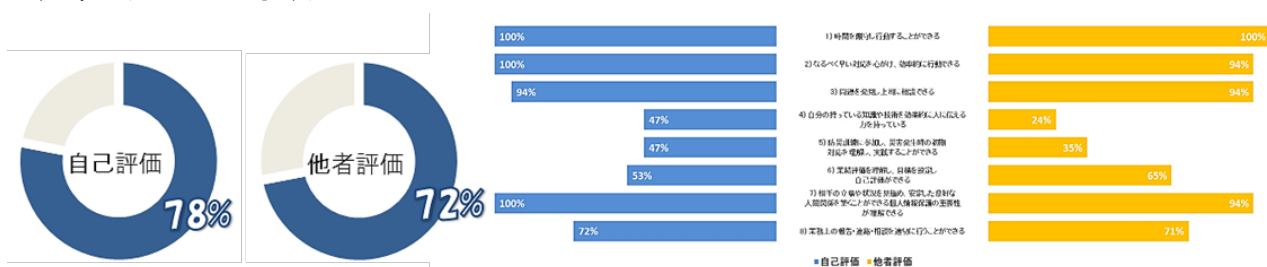
自己評価と他者評価の差=約3% で大きな乖離はなかった。

- ・目標に対する到達度や課題の解決度合いに対する認識がほぼ一致している
- ・普段より新採用薬剤師と指導者で密にコミュニケーションが取れていると考えられる
- ・新採用薬剤師は客観的に自己分析し的確に評価できている

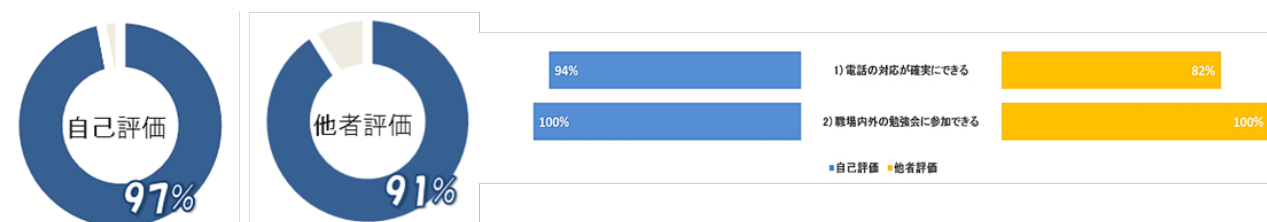
I) オリエンテーション事項



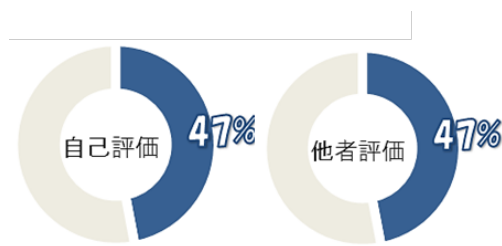
II) 社会人マナー事項



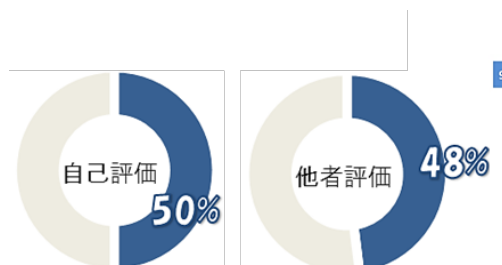
III) 基本姿勢



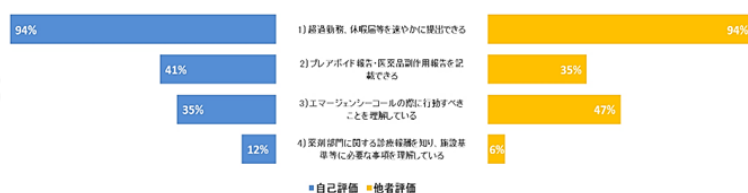
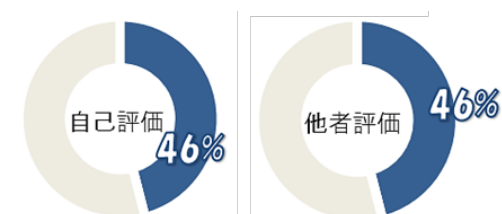
IV)調剤等基本的技術



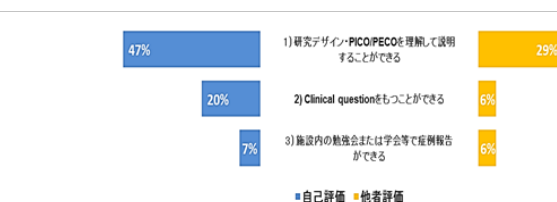
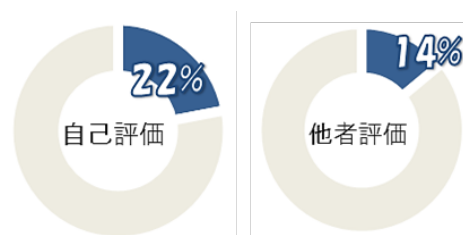
V)専門的実践能力



VI)薬剤業務における教育的・管理的



VII)臨床研究・プレゼンテーション



自己評価ワースト5

- 1 位…施設内の勉強会または学会等で症例報告ができる (7%)
- 2 位…薬剤部門に関する診療報酬を知り、施設基準等に必要事項を理解している (12%)
- 3 位…平日・土日祝の当直ができる (12%)
- 4 位…Clinical question をもつことができる (20%)
- 5 位…検査値を考慮し薬物への影響について解析・検査の実施提言ができる (24%)

総括

オリエンテーション事項、社会人マナーおよび基本姿勢については7割以上の新採用薬剤師及びその評価者が出来ていると評価していました。一方で、調剤等基本的技術や専門的実践能力、薬剤業務における教育的・管理的側面に関しては5割程度、臨床研究・プレゼンテーションに関しては2割程度と低い結果となりました。今回の結果を踏まえまして今後の教育・指導にお役立てください。2月にも再度評価をお願いする予定ですので、ご協力をお願いいたします。

NHO-PAD を用いた採用薬剤師の評価項目

I) オリエンテーション事項		
1	知識	病院組織の基本方針、理念を理解する
2	知識	業績評価を理解し、目標設定、自己評価ができる
3	態度	患者接遇（意識、身だしなみ、態度）ができる
4	知識・態度	インシデント・アクシデント発生時の対応を理解する
5	知識・技能・態度	標準予防策が理解でき、実施できる
6	知識・態度	針刺し事故防止や事故発生時の対応ができる
7	知識・態度	個人情報保護の重要性が理解できる
8	技能・態度	患者および院内職員に対し、適切な言葉遣い、挨拶、電話対応等ができる
9	知識	薬剤関連の診療報酬点数を理解する
II) 社会人マナー事項		
1	態度	時間を厳守し行動することができる
2	態度	業務上の報告・連絡・相談を適切に行うことができる
3	態度	相手の立場や状況を見極め、安定した良好な人間関係を築くことができる
4	知識・態度	業績評価を理解し、目標を設定し自己評価ができる
5	知識・態度	防災訓練に参加し、災害発生時の初期対応を理解し、実践することができる
6	技能・態度	自分の持っている知識や技術を効果的に人に伝える力を持っている
7	態度	問題を発見し上司に相談できる
8	態度	なるべく早い対応を心がけ、効率的に行動できる
III) 基本姿勢		
1	態度	電話の対応が確実にできる
2	態度	職場内外の勉強会に参加できる
IV) 調剤等基本的技術		
1	技能・態度	疑義照会を簡潔に行い、経過（内容等）を記録している
2	知識・技能	麻薬・覚醒剤原料・向精神薬・毒物・劇物について理解し、正しく対応できる
3	技能・態度	院内製剤におけるクラス分類を理解し、必要な倫理的措置を講じることができる
4	知識・技能	医薬品の経済的在庫管理、購入計画（後発医薬品への切り替え）が説明できる
5	技能・態度	平日・土日祝の当直ができる
6	知識・技能	持参薬鑑別、代替薬の提案など持参薬の対応ができる
7	知識・技能	薬物血中濃度の測定の原理を説明でき、処方設計支援ができる
V) 専門的実践能力		
1	知識・技能	薬剤管理指導料算定基準に従い、必要事項および薬学的アセスメントを記載できる
2	技能・態度	患者の目線に立った平易な表現による服薬指導ができる
3	技能	退院後の生活環境を考慮した退院時服薬指導ができる
4	技能・態度	注射剤混合後の安定性および配合変化をチェックできる
5	技能・態度	検査値を考慮し薬物への影響について解析・検査の実施提言ができる
6	技能・態度	他の医療スタッフからの問い合わせに対して、迅速かつ的確に対応することができる
7	知識・技能	文献検索し、医薬品の審査報告書を読むことができる
VI) 薬剤業務における教育的・管理的側面		
1	態度	超過勤務、休暇届等を速やかに提出できる
2	知識・技能	ブレイバード報告・医薬品副作用報告を記載できる
3	知識	エマージェンシーコールの際に行動すべきことを理解している
4	知識	薬剤部門に関する診療報酬を知り、施設基準等に必要な事項を理解している
VII) 臨床研究・プレゼンテーション		
1	知識	研究デザイン・PICO/PECOを理解して説明することができる
2	技能・態度	Clinical questionをもつことができる
3	技能・態度	施設内の勉強会または学会等で症例報告ができる

業務推進委員会活動報告(令和4年10月)

業務推進委員会委員長
井上 裕貴

業務推進委員会は、今年度より新しい体制で活動して参りました。以前からの活動を継続的に引き継いでいくことと委員のみなさま全員で参加できるような体制作りを試みました。研修や業務量調査などの目的をより明確にするために委員会を「業務向上小委員会」、「業務改善小委員会」、「業務共有小委員会」の小委員会に分類し活動しております。

今回は2022年4月から2022年9月までの各小委員会からの活動報告をさせていただきます。

《業務推進委員会コアメンバー》

委員長	井上 裕貴(名古屋医療センター)
副委員長	田淵 克則(金沢医療センター) 後藤 拓也(名古屋医療センター) 山内 貴子(名古屋医療センター)
小委員会 コアメンバー	青木 まりあ(長寿医療研究センター) 安藤 舞(名古屋医療センター) 安達 尚哉(富山病院) 稲垣 雄一(榊原病院) 加藤 雅斗(長寿医療研究センター) 酒谷 健斗(北陸病院) 竹田 あかね(名古屋医療センター) 藤居 昂生(金沢医療センター) 細江 慎吾(豊橋医療センター) 森下 拓哉(金沢医療センター)

◆業務向上小委員会◆

① THP THE プレアボイド大賞 WG

小委員長:安藤(名古屋医療センター) 酒谷(北陸病院) 竹田(名古屋医療センター)

この小委員会では、各施設の優良プレアボイド情報を収集・共有することで、日々の薬剤師業務内容の参考・向上につなげることを目的としています。

2022年6月より、第4回 THP THE プレアボイド大賞の優秀なプレボイド大賞の結果を発表させていただきました。以下のご施設には表彰状と副賞をお送りさせていただきました。会員の皆様は事例を確認いただき、日々の病棟業務などにご活用いただきますようお願いいたします。

副作用の重篤化回避	【MVP賞】長寿医療研究センター 下痢の発生時期からイリノテカンによる遅発性下痢を疑い、イリノテカン
-----------	---

	の排泄遅延を起こし下痢を遅延させる可能性のあるロペミンの中止と排泄を促す炭酸水素ナトリウムの使用を提案した症例。 【優秀賞】医王病院 メホルミン内服中の筋強直性ジストロフィー患者でAST、ALT、BUNの上昇あり。Creによる腎機能評価が困難であるため、シスタチンCによる腎機能評価と乳酸値の検査を提案、腎機能の高度低下と乳酸値の上昇が判明し、投与中止に至った症例。
副作用の未然回避	【MVP 賞】名古屋医療センター DA-EPOCH-R 療法施行中の患者でレベル2への増量が予定されていたが、検査値を確認したところ増量基準に該当していなかった。「絶対好中球数」を投与量の基準とすべきところ、「全有核細胞数」が基準とされていた。(略語はどちらもANC)医師に報告し、過量投与を回避した症例。 【優秀賞】長良医療センター アレルギー負荷試験のパスでケチフェンとリンデロンシロップが処方されていた。てんかんの既往歴がある患者に禁忌となるケチフェンが処方されていたことを発見。その後、てんかんの既往歴がある患者は、パスのケチフェンからザイザルへ変更となった症例。
薬物治療効果の向上	【MVP 賞】三重中央医療センター メルカゾールが処方されたが、添付文書から逸脱した用法であったため処方間違いを疑い、カルテを確認したところ甲状腺機能が低下していた。医師にチラーヂンではないか疑義照会し、処方変更となった症例。 【優秀賞】静岡医療センター 下部内視鏡検査後アザニン開始、白血球減少などの副作用の発現リスクを確認するため、NUDT15の遺伝子検査を提案した症例。

※これらの事例は、学術研究グループと共有して症例報告などの報告に活用させていただきます。

◆業務改善小委員会◆

① 働き方改善 WG

小委員長：細江(豊橋医療センター)、加藤 雅斗(長寿医療研究センター)

このWGでは、家庭を持った女性薬剤師が働きながら業務をどのように両立させているかをインタビュー形式で聞き取りを行います。その内容をTHP会員で共有し、働き方を参考にし、会員で考えていくことを目的としています。

家庭を持たれている薬剤師の先生だけでなく、これから家庭を築かれる予定の先生方にもご一読いただき、今後の働き方の参考の一例としていただければと思います。

「NHOママ薬剤師(Pharmama)に聞く Vol.6」を5月に発刊させていただきました。

THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。
<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html> Vol.1～5 については、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

「NHOママ薬剤師(Pharmama)に聞く Vol.7」については、2022 年度後期より作成開始予定です。

② QC 活動 多施設共同 QC

担当：中村(長良医療センター)

業務推進委員会では QC 活動の推進も行っており、定期的な研修会を行っていましたが、今年度は QC を体験し自ら QC を実施しようと思えるきっかけを作るため、また他施設の仲間と知り合うために、一つの QC テーマを多施設で行う予定です。

テーマは「薬品の使用期限管理」をテーマに活動を準備中です。参加施設募集を行い、問題点の共有、対策実行、対策の評価を行う予定です。

医薬品管理については、どのご施設も課題に上がるテーマかと思います。QC を通じて皆さんで問題解決してみませんか？参加施設募集中です。

③ THP 第一回 MBTI 研修会(業務推進委員会との共催)

小委員長：井上(名古屋医療センター)、平島(静岡医療センター：教育研修委員会)

今年度は、中堅薬剤師にチーム医療メンバーとしての自覚意識や後輩への教育・評価法を身につけるためのトレーニングやチームビルディングやリーダーシップスタイルなど理解促進を図ることを目的とした研修会を開催いたします。

・THP 第一回 MBTI 研修会 概要

2022 年 10 月 1 日(土) 10:00-17:00

名古屋医療センター 第一会議室 10 名参加予定

・THP 第二回 MBTI 研修会 概要(予定)

2023 年 2 月 4 日(土) 10:00-17:00

金沢医療センター 第一会議室(現地開催予定) 10-12 名参加予定

2 月にも北陸地方で開催予定です。たくさんの参加をお待ちしております。

◆業務共有小委員会◆

① 薬薬連携 WG

小委員長：森下(金沢医療センター)、青木 まりあ(長寿医療研究センター)

昨年度は、「退院時薬剤情報連携加算(60 点)」について取り組みを行っている 6 施設について運用方法をご紹介させていただきました。

今年度は、がん分野の連携充実加算をテーマに現在準備を進めております。

② COVID-19 対応

小委員長：安達(富山病院)、藤居(金沢医療センター)、稲垣(榊原病院)

今年度は、薬剤部での手指消毒についてアンケートを準備中です。

③ チーム医療

小委員長：田淵(金沢医療センター)、井上(名古屋医療センター)

2022 年度のチーム医療担当者名簿を作成し、9 月に会員の皆様に配布させていただきました。今年度は骨粗鬆症リエゾン、フォーミュラリー担当者を新たに追加しております。

チーム医療担当者名簿を活用して、各担当者間の情報共有やコミュニケーションを活発に行えるような運用も現在検討中です。

ご要望などありましたら、小委員会の委員に何なりとお伝えください。

以上、委員会報告となります。

業務推進委員会では、少しでも THP 会員の業務遂行能力の向上や業務の効率化、業務の共有につながればと考えております。お時間あるときに HP をご覧いただき、会員の皆様の業務にお役立ていただきますようお願いいたします。

2022 年 10 月 3 日

令和 4 年度前期学術研究委員会活動報告

学術研究委員会委員長 山本吉章

1. 令和 2 年度 学術小委員会活動実績 多施設共同研究
継続

研究課題（継続）

①筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の疼痛緩和治療に関する現状調査」

金沢大学 石田奈津子

（参加施設：医王病院、天竜病院、静岡てんかん神経医療センター）

「薬物相互作用によって誘発されるポリファーマシー」

静岡てんかん・神経医療センター 山本吉章

研究課題（新規）

「左室駆出率が低下した心不全における抗不整脈薬の薬物動態解析」

三重中央医療センター 朝居祐貴

「プラチナ系抗癌剤にて発現した末梢神経障害はミロガバリン内服が良いのか？」

三重中央医療センター 小島朋大

2. 令和 3 年度会員研究実績（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

1) 国内外学術誌掲載（査読あり）

- ・ 朝居祐貴「Risk assessment of micafungin-induced liver injury using spontaneous reporting system data and electronic medical records Journal of infection and chemotherapy」 Journal of Infection and Chemotherapy, 2022, 28, 690-695
- ・ 朝居祐貴「Evaluation of the Expression Profile of Antibiotic-Induced Thrombocytopenia Using the Japanese Adverse Drug Event Report Database」 International journal of toxicology」 2021; 40: 542-550.
- ・ 朝居祐貴「Comprehensive analysis of antibiotic-induced agranulocytosis using the Japanese adverse drug event report database」 The Japanese journal of antibiotics」 2021, 74, 218-226.
- ・ 安達尚哉「カット・ドゥ・スクエアを用いた治験関連文書の電磁的管理に対する治験モニタリング担当者の評価」 医療薬学. 2021, 47, 335-344.
- ・ 上田真也「ダプトマイシンの高用量投与によるクレアチンキナーゼへの影響に関する検討」 日本医薬品安全性学. 2021, 7, 9-18.
- ・ 鈴木亮平「Analysis of factors contributing to medication errors during self-management of medication in the rehabilitation ward: a case control study」 BMC Health Services Research, Published 03 March 2022
- ・ 鈴木亮平「Medication Errors in the Operating Room: An Analysis of Contributing Factors and Related Drugs in Case Reports from a Japanese Medication Error Database」 Journal of Patient Safety, 2022, 18 :e496-e502.
- ・ 福島悠太郎「Change in the pharmacokinetics of lacosamide before, during, and after pregnancy. Seizure. 2021; 88: 12-14.
- ・ 間瀬広樹「経口フルオロウラシル系抗癌剤とワルファリンの併用がPT-INRへ及ぼす影響」 医療, 2021, 75, 162-164.
- ・ 間瀬広樹「院外処方箋への検査値の記載に関する薬局薬剤師へのアンケート調査」 医療, 2022; 76, 55-59.
- ・ 山本高範「超速効型インスリン製剤の投与タイミングに関するアンケート調査」 日本病院薬剤師会雑誌. 2022, 58, 79-84
- ・ 山本吉章「Risk factors for psychiatric adverse effects associated with perampanel therapy」 Epilepsy Behav. 2021; 124: 108356.

3. 令和3年度 学術研究委員会コアメンバー会議

1. 日時 2022年4月12日（火）17:45～18:20
2. 開催方法 Zoom 会議
3. 協議・報告事項

1. 学術研究委員会の目標と長期計画

令和3年度より、症例検討会を行うことになり、THP 会員の発表の場が増えた。会員すべてが、入職3年以内に学術発表を行えるよう指導体制を整える。地域でチューターを作り、小規模施設の若手薬剤師の発表をサポートする。

2. 学術研究委員会の目標と長期計画、研究実績調査

令和3年度の論文数は12報であった（前年度比+1報）。複数査読の学術誌にアクセプトされた6名の先生（朝居祐貴先生、安達尚哉先生、鈴木亮平先生、福島悠太郎先生、間瀬広樹先生、山本高範先生）に論文賞（ギフトカード5000円）を贈呈する。なお、山本委員長（選定者）、上田先生（関東ブロックに異動）は対象外とする。

3. 研究会、勉強会について

令和3年度と同様に研究会を実施する。今年度より新たに Web で論文抄読会を開催する（主担当：座光寺伸幸）。なお、会を開催するにあたってアンケートを行う（静岡医療センター倫理委員会承認済み）。研修単位の申請は、病薬認定薬剤師のみとする。

3. 令和4年度 小委員会活動計画

今年度も共同研究を継続する。昨年の研究会で採択された共同研究を実施する。

4. 事業計画

実施体制

令和3年度と同じメンバーで委員会を運営する（大月先生が医王病院から金沢医療センターに異動）

研究会

昨年と同様に症例カンファレンス（Web 開催）を7月と12月、9月に日本医療薬学会年会の研究討論会（現地+Web 開催）、2月に研究発表会（Web 開催）を行う。第2回がん研究会（THP Web 研究討論会 -ステップアップ編-）も3月頃に開催を予定する。本年度は、がんセンターから外部講師を招聘して講演を依頼する。

新たに行う Web で論文抄読会は、5月から開始して月に1回の頻度で行う。コアメンバーで持ちまわる。THP 会員、参加者よりアンケートを行い研究会の成果を評価する。

なお、個人情報保護法の改訂でオプトアウトが不可になる可能性が高い。長寿医療研究センターや大学と共同研究として、この問題をクリアする。症例検討会での発表も同意取得が必要となる可能性がある。

研究クラウド

初めて研究を行う会員が参考にできるよう学会発表された抄録、スライド・ポスター、倫理委員会申請用の研究プロトコルを収集し閲覧可能な書庫を作成する。学術委員会で Gmail アドレスを取得し、Goggle ドライブを作成する。

5. 令和4年度予算案

令和3年度の会計は、予算案155,000円に対し、支出66,520円であった（前年度56,554円）。日本医療薬学会年会の研究討論会（現地+Web 開催）の会議室使用料を想定していたが、Web 開催になり不要となった。また、多施設共同研究費の費用を計上していたが、英文校正費、論文掲載料は、外部からの競争研究費から捻出した。

令和4年度は154,000円の予算を計上した。余剰金が512,294円あるため、今年度も活動費を受けず委員会を運営する。

4. 令和3年度 前期活動報告

1) 第1回 THP 合同症例カンファレンス

日時：2022年7月21日（木） 18時～19時30分

場所：Zoomによる口頭発表

座長： 名古屋医療センター 近藤芳皓

1. 「再生不良性貧血にサイモグロブリンを投与した症例」

名古屋医療センター 薬剤部 亀井 裕明

2. 「絶食下におけるジスチグミン誘発のコリン作動性クリーゼに対して薬剤師が早期介入した一例」

三重中央医療センター 薬剤部 大井 勇秀

3. 「レナリドミド・ポマリドミドによる皮疹を疑う1例」

金沢医療センター 薬剤部 山下 紗瑛奈

4. 「くも膜下出血におけるピヴラッツ使用例」

名古屋医療センター 薬剤部 尾藤 夏帆

2) 第32回日本医療薬学会年会 研究討論会

日時：2022年9月24日（土）の予定であったが、2023年2月に延期

本学会の一般演題発表者はわずか4名（名古屋医療センター 林先生，金沢医療センター 有原先生，三重中央医療センター 朝居先生，天竜病院 杉山先生）であった．研究討論会の演題数も当初想定していた数を下回っていたため延期とした．

編集後記

Vol.28 を発行します。

巻頭言を読んでいるとスライドをリバーサルフィルムで作成する話が出てきます。時代を感じますが、当時は病院に出入りしている写真屋さんなどにスライド作成依頼をし、スライド原稿を渡すかスライド原稿を撮影したリバーサルフィルム渡すかして完成品が手元に届くまでに 10 日前後掛かっていたように思います。一発勝負になりますので発注までに何度も何度も原稿を確認し直したことを思い出します。今では PowerPoint で簡単に何度でも修正ができてしまうので便利な世の中になったものだと感じます。

また、施設紹介では七尾病院の近隣の和倉温泉にはあの有名旅館だけではなくリーズナブルな旅館もありますので温泉を起点に能登半島の旅行を楽しむのも良いかもしれません。今の時期でしたら輪島市の白米千枚田をライトアップする「あぜのきらめき」が開催されていますので、個人的には今年こそは行ってみたいなと思っています。ただし、コロナウイルスの次の波やインフルエンザウイルスが流行するのかなど今後の感染状況が気になるところはありますが…